

ウィークリー・ブレッド・オブ・ライフ
(2024年4月8日(月)～14日(日))

岸和田聖書教会
牧師 栗原純人

「ブレッド・オブ・ライフ」とは「いのちのパン」(ヨハネ 6:48)。「わたしはいのちのパンです」と言われるイエス・キリストさまを食しましょう。今日一日の力です。以下の手順を参考に聖書を読みましょう。

1. 静まります。「しかし私は 義のうちに御顔を仰ぎ見 目覚めるとき 御姿に満ち足りるでしょう。」(詩篇 17:15)
2. 声に出してその日の聖書日課を読みます。
3. 気づいたこと、わからないことなどをノートに箇条書きし、その後『みことばの光』、このブレッド・オブ・ライフの文章を読みます。わかったことがあったら、さらに書いてみましょう。
4. もう一度、聖書日課を読みます。違う響きがあるでしょうか？
5. 祈りましょう。実際に声に出して。そして祈りの中心部分を書いてみましょう。一日の終わりに、今朝の聖書を思い起こし、みことばがどのように生きたか、思い巡らしましょう。

出エジプトの旅をモーセ、アロン、イスラエルの民とともに、歩みましょう。

4月8日(月)

今日の聖書日課：出エジプト 6:1～30

モーセはこのようにイスラエルの子らに語ったが、彼らは失意と激しい労働のために、モーセの言うことを聞くことができなかった。

出エジプト 6:9

昨日の説教で学んだとおり。イスラエルの民は「モーセとアロンのせい」で、激しい労働を課されました。そんなモーセとアロンが語ることばなど、聞けるわけがありません。いくら、これは主のことばだ、と正しさを主張しても彼らは聞くことができませんでした。それでも主は、なおもモーセにファラオにイスラエルを去らせるよう、告げよ、と命じます。モーセはイスラエルの民でさえ自分の言うことを聞かないのに、ましてファラオが聞くわけがない、と答えました。それに自分は口べたなのだ、と。しかし、主は引き下がりません。「わたしは主である。わたしがあなたに語ることをみな、エジプトの王ファラオに告げよ。」(29)。モーセはまた、自分の口べたを主張します。これは、主の訓練でした。

4月9日(火)

今日の聖書日課：出エジプト 7:1～25

そこでモーセとアロンはそのように行った。主が彼らに命じられたとおりに行った。

出エジプト 7:6

主とモーセとの「根競べ」。その結果は？モーセとアロンはそのように行った。すなわち、主が彼らに命じられたとおりに行ったのです。ただ語っただけではありません。行ったのです。語ることも行うこと。そして主が言われたわざを行うこともしました。冒頭の聖句は、このような嘆きと混乱の中でモーセとアロンが腹を決めたことを表しているように思えます。イエスがゲツセマネで祈り、そこから十字架の道を歩まれたことを思い起します。

神さまは、あなたとも根競べをされます。いつでも「主のもとに戻り」ましょう(5:22)。あなたは碎かれて、用いられる器となります。

4月10日（水）

今日の聖書日課：出エジプト8：1～15

主がモーセのことばどおりにされたので、蛙は家と庭と畑から死に絶えた。

出エジプト8：13

エジプトでモーセとアロンがファラオの前で、民の前で行った奇跡が始まります。7章では杖が蛇に変わる。ナイル川の水が血に変わる。そして8章では蛙がエジプト全土に群がった。先の二つのことが起こってもファラオはモーセのことばを聞き入れませんでした。しかし蛙が自分のところに這い上がって来たとき、イスラエルを去らせるから蛙を除くよう祈れ、とモーセに命じました。モーセは言われたとおり、主に祈りました。「主がモーセのことばどおりにされた」。なんだか違和感があります。神が人の言うことを聞く？そうではありません。昨日のメッセージ。主の言われることを「そのように行う」（7：6）二人。そのモーセのことば、祈りを主が聞かれたのです。結局ここでも現わされたのは主の栄光でした。

4月11日（木）

今日の聖書日課：出エジプト8：16～32

しかし、ファラオはまたも心を硬くし、民を去らせなかった。

出エジプト8：32

蛙に続くのは、ブヨの害、そしてアブの害。ブヨのときは、人や家畜に付いたと言われていますが（8：18）、ファラオには付かなかったのでしょうか、彼はモーセに祈ってくれ、とは言いません。しかし、アブのときは、ファラオはモーセに、民を去らせるから祈ってほしいと願います。モーセが祈るとアブは一匹残らずエジプトの民から離れました。このような主のみわざを見ても、体験しても、ファラオは心を硬くするのです。「またか」と思いますね。「のど元過ぎれば熱さ忘れる」とはこういうこと。あなたにも、こういうところはないですか？

4月12日（金）

今日の聖書日課：出エジプト9：1～12

主は翌日そのようにされた。エジプトの家畜はことごとく死んだが、イスラエルの子らの家畜は一頭も死ななかつた。

出エジプト9：6

9章は、非常に重い疫病、うみが出る腫物、雹、のわざわい。これらのわざわいを起こされる時、主はもう一つのことを同時にされました。イスラエルには害が降らない、ということでした。これはファラオやエジプトの民に対してもインパクトがありましたが、それと同時にイスラエルの民もまた、このことに驚いたことでしょう。恐れと同時に、主が守ってくださることを彼らは知りました。

4月13日（土）

今日の聖書日課：出エジプト9：13～35

しかし、このことのために、わたしはあなた（ファラオ）を立てておいた。わたしの力をあなたに示すため、そうして、わたしの名を全地に知らしめるためである。

出エジプト9：16

主は、ファラオの頑なさをもご自身の栄光のために用いられました。不思議ですが、これが主です。

4月14日（日）礼拝説教箇所：出エジプト10：1～29 「みことばのとおり」

途中で妥協してしまう思いに駆られることがありませんか？みことばのとおりに生きましょう。